

東 亞 天 文 協 會
—(觀 測 部 月 報)—

流 星 課 月 例 報 告 (71, 72)

課 長 小 横 孝 二 郎

本年1月乃至4月までの観測報告者は次表の通りである。

観 測 者	観 測 地	1 月			2 月			3 月			4 月		
		回数	時間 数	✓	回数	時間 数	✓	回数	時間 数	✓	回数	時間 数	✓
堀田 泰生	横 濱 市										1	116	6
小横孝二郎	金 屋	1	30	5	2	40	6	2	90	10	1	30	2
大石 辰次	静岡縣吉永	1		2									
佐野 英生	敦 賀 市							1	40	7	1	15	2
實方 雅雄	京 城 府	1	55	3				1	65	4	2	100	6
吉井 耕一	廣島縣竹原	4	670	127	5	900	130	5	850	72	6	835	93

以上の外本田實氏(廣島縣瀬戸), 望月鑑二氏(静岡市)より火球の報告があつた。

1月初旬の四分儀流星群の観測は下弦の月と天氣惡とに禍されたのか観測は全く行はれなかつた。自分は當時津山市にあり, 4日朝最盛時に際し, 折柄の密雲の切れ間をねらつて見たが何等の結果も得られなかつた。

1月下旬より2月初につゞく牧夫座の流星群も全く見られてゐないが, 吉井氏により1月中旬乙女座の附近に2~3の小流星群が観測された。

2月18日0時05.5分—2時42.5分の間に露出された吉井氏の乾板に流星像の痕跡があつた。これは同氏が得られたる33番目のものである。同夜同氏は獵犬座及獅子座にそれぞれ1個づつの輻射點を得た。

3月2—4日頃に出現する獅子座 γ 流星群を目標とした實方氏の4日夜半の観測中には同群に屬すもの僅か1個にすぎぬ様である。

4月の上～中旬に於ける乙女座の火星は堀田、實方、吉井3氏によつて若干觀測されてゐるが大光度のものは認めて居ない。本年は、琴座群の觀測も甚だ少く出現状態は明らかでない。

遊 星 面 課 月 報 (6月)

凡て遊星が衝を過ぎて、宵の南天に見える様になると、見取圖が急増するもので、今年の火星も5月20日の衝を過ぎてから重要な見取圖が増して來た。6月末現在の見取圖合計は、前田治久氏33枚、渡邊恒夫氏93枚、木邊課長24枚、伊達幹事33枚で此外に尼ヶ崎市圖書館で開かれた火星觀測會に、青木章氏、田村文造氏、津久井修氏の3氏より各1枚宛、静岡縣の大石辰治氏から58耗屈折による見取圖2枚、大阪市の中野義夫氏より47耗屈折による見取圖2枚を受取つた。(累計187枚)

氣流状態は5月末から6月上旬にかけて最も良好で、それ以後は梅雨期の悪天候に阻まれてゐる。

北極冠は火星の秋分を前に6月初からごく小さいのが瞥見出來最近(6月下旬)には急激に大きくなつた。(或は極地の雲かも知れず、この雲が消えると其の下に極冠が結成されてゐると云ふ説もある)

6月に入ると木星も夜半見えて來るので、觀測は渡邊氏、青木章氏等によつて數枚のスケッチが得られてゐる。7月になれば觀望の好機になるから小口径にも適して來る。(E. D.)

シイイング (Seeing) と デフィニション (Definition) のスケール

Seeing :—

1. 像は全く亂れて遊星の形狀も判らない。
2. 形狀は判るが、模様は何も見えない。
3. 模様のある事丈け判る。
4. 像全體は常に動くが、模様は所々時々見える。
5. 像の正しい形狀が判り、模様も時々細部が見える。
6. 像は動いてゐるが、注意すれば細部が可成り見える。
7. 像が餘程靜かになり、細部が大抵見える。
8. 像は一層靜かで、細かい模様の形狀が判る。

9. 像は殆んど動かず、極めて細部が見える。

10. 像は完全に静止して、望遠鏡の能力限りの細部が常に見える。

Definition

VP (Very Poor) 像は全くボケてゐる。

P (Poor) 像はボケて周辺も明かでない。

RP (Rather Poor) 像の周辺が時々見得る。

M (Moderate) 像の周辺がボケたり又一部明瞭である。

RG (Rather Good) 像の周辺が時々ボケる事がある。

G (Good) 像は明瞭で、周辺もハッキリしてゐる。

VG (Very Good) 像は極めて明快で、周辺の明暗は切つた様に鮮かである。

黄 道 光 課 報 告 (1937年5月)

課 長 荒 木 健 兒

宵西天の黄道光は淡く且銀河と混じて觀測困難となり、曉東天の黄道光は極めて淡くて見られないといふ前例を破り、天候にはあまり恵まれなかつたのに、次の如く多くの觀測がなされた。

觀 測 者	觀測地	觀 測 日 (下線のあるのは曉の觀測)											
堀田 泰生	横濱市	2											
大石 辰次	静岡縣	2	5	8	9					11	12		
石上 五郎	静岡縣	2	3										
廣瀬永治郎	岐阜縣			7	8			10				<u>22</u>	
佐野 英生	敦賀市		4	5	7	8	<u>9</u>	<u>9</u>	<u>10</u>	<u>10</u>	<u>11</u>	11	12
本 田 實	廣島縣											<u>17</u>	30
淺野英之助	廣島縣	3		8				10					

要するに、非常に明るい出現を見せたためであつて、宵は例年の2~3月頃、曉は8月上旬頃の明るさであつた。光帯も明るく、従つて京都山科方面からも觀望された。頂點の位置は著しく北偏してゐた。對日照は廣瀬君の7日の觀測があり、橢圓形で、中心點は北西偏。

寫眞は、本田君により、6, 10, 30日の各宵に試みられた。

御斷り 太陽課報告は紙面の都合で次號に掲載致します。